

ネガティブ・キャンペーンはやめませんか？

何でも反対の風潮を大胆不敵に「天地がえし」して、新しい芽吹きを助けるのが野平流。市長になることが目的ではなく、市長になってドシドシ仕事したいのです。

野平まさくには、市民の皆さまと共に自治体経営の正道を踏む真の都市経営者です。

K候補のバラに反論します その1

「高すぎる市長退職金をゼロに!!」(K候補の主張)

「給料の引き下げ30%!!」と「退職金の引き下げ30%!!」

(野平まさくにの主張)

銚子市長の退職金の額は、千葉県退職手当組合の条例で決められています。銚子市職員の退職金の計算システムと同じです。同組合に加盟しない県内の特別に裕福な市長は別ですが、どこの市長も同じ係数をかけ算します。

それでも、金額が市ごとに違うのは、基礎になる給料月額が違うからです。銚子市長の給料は、県下でも最低水準ですが、給料月額をもっと下げれば、退職金の金額ももっと下がりますし、ボーナスの金額ももっと下がります。K候補は、かつて、銚子市の議員給料の引下げに強硬に反対しました。その実績と思惑があるから、給料の引下げ方式を主張しないのですか。

だから、正しくは、

「市長退職金をゼロに!」

というのでなく、

「市長給料の引き下げ!」も

「市長退職金の引き下げ!」も

の方法で引き下げる。市長選挙で退職金引下げを叫ぶ新人が出ますが、「バナナのたき売り」でも「お手盛り」でもなく、市民代表の特別職報酬審議会答申に従うのです。

野平まさくには、国の政策に呼応し、市議会の議決を得て、市長の給料を、7月から30%引き下げたい。比例して、ボーナスも退職金の額も全部自動的に下がります。

K候補のバラに反論します その2

黒塗りの公用車の廃止!!

公用車批判も、新人候補がよく使う手法です。現在の市長用の公用車は、信じられないポソコツ車です。

走行距離 23万キロ
使用年数 13年(県内36市平均8年)

歴代の市議会公議長も、昔から同じ型の黒塗りの公用車を使用しています。

元議長の加瀬庫蔵議員、宮内昭三議員、宮川雅夫議員も、任期中、黒塗りの公用車を手放しませんでした。走行距離は短いですが。

霞ヶ関の官庁街、永田町の国会や議員会館、千葉市、銚子市内を走り回る、地方都市の市長の市長車は、容易に公用車だと判ることが必要です。厳しいチェックに時間をロスしないために、社会慣行として、黒塗りの公用車を使うのです。

運転手をタクシー会社に委託することは、不適切です。市役所には運転業務に習熟した専門技能員が何人もいますので、その仕事を奪うのは得策ではないですし、法的に守秘義務を負わない非公務員人運転士では、秘密を要する電話が、車内ではかけられません。県内37市のうち

2市だけが、委託運転士を利用しています。

野平まさくには、行動する市長です。年間平均3万キロを車で移動します。市役所職員が合間に車を利用する可能性はほとんどないです。市長がいつでも使えるように待機する公用車には、「完走」はないです。出張に公共交通機関や電車を使っているのは、24時間が公務の市長として、迅速な活動ができません。市長の仕事にロス時間を作る方が無駄です。公用車の無駄より、市長の人件費の無駄を心配すべきです。仕事をするイメージを描けない新人のK候補が、現実を知らずに安易な「黒塗り公用車批判」をするのは、適切ではないです。市長になってから、現実を目でみて、実行して下さい。

なお、議長車と市長車の値段は、全く同額です。議長車の距離が短く、市長車の距離が圧倒的に長いので、数年前に交換して乗っています。K候補のような攻撃は予想されていました。だから、1年以上前に公用車変更の時期が到来していました。あえて新車に変えずに、割安になったリース料でポソコツ公用車に乗り続けています。K候補の攻撃は、「想定内」でした。

k候補の「バラ」に反論します その3

豪華な市役所反対!!

緊急防災減災事業は、自治体が、津波による人命の損傷を回避するための特別事業です。

銚子市は、国のこの優れた緊急避難の支援制度を活用し、従来は補助率0%だった市役所庁舎と補助率22.5%だった消防署を、ともに補助率70%の交付金を活用して、新築・一体整備・同・敷地で建替えます。

県内7市が、市役所移転・新築を発表していますが、銚子市だけが、この緊急制度による恩恵を引き寄せられる見込みです。

こういう条件が活用できるにもかかわらず、「豪華な建物」だから新築しないのが適切でしょうか。市民や子供たちの生命を守らないのでしょうか。市立銚子中は建替えないのですか。

なお、総事業費57億円の場合は、銚子市の市費負担27億円は、30年返済を前提とすると、年負担額9000万円程度ですし、総事業費40億円の場合は、銚子市の市費負担額19億円の年負担額は、たった6700万円(元金)です。

k候補の「バラ」に反論します その4

財政運営と借金経営

ご紹介の町の「現金積立方式」は、珍しい発想です。これにより、国の配分する交付金を放棄しています。現在の地方財政システムを無視した、「無借金経営」の議論は、財政的には自傷行為です。

毎年の返済金を毎年のリース料と同じに考えればよいのです。建物の耐用年数の一定期間を使用する各世代が、毎年、借入金(地方債)の返済金を負担する方式は、合理的です。しかし、リース契約だったら所有権がないので交付金が買えないのに、返済金の場合には何割もの

交付金が、自動的に国から毎年配分されます。「無借金経営」とは、国の地方債制度と地方交付税制度の連動を無視した、無謀な財政運営の手法です。企業財務と都市財政は別物です。

どの市にも、現実的に、将来の建築資金を積み立てる財政の余裕は、与えられていません。銚子市が50年間使用する市役所の建築資金を30年から50年辛抱して貯金した後に建築するのは、明らかに愚策です。この方法では、建築費の総額57億円は、全額市費負担となります。公共施設の整備に関しては、地方債制度と

地方交付税制度とが、連動しています。57億円の建築費を全額借金(地方債)して建築し、返済する30年間にわたって29億円の地方交付税交付金を国からもらえば、30年間の市費負担合計は、23億円で済みます。

公共施設を全額市費で負担するのは愚かなことで、財政支援制度を知らない素人の発想です。財政に無知な主張をするk候補には、市長の職責をお任せできません。

銚子市の財政調整基金が最多だった時期は、平成元年でした。それも30億円ではなく、26億

k候補の「バラ」に反論します その5

ゴミ焼却施設の危険性

銚子市、旭市、匝瑳市の3市が広域経営する東総地域広域圏組合のゴミ焼却事業は、平成10年に、9市町(銚子市、旭市、八日市場市、飯岡町、海上町、下潟町、野栄町、光町、多古町)で始まった広域処理の事業です。以下、k候補の主張の間違いを指摘します。

① 事業費 1500億円〜2000億円

間違っています。最近の「ごみ焼却施設検討委員会」の報告では、135億円という推計値が発表されています。全国各地の入札状況では、100億円を確実に下回ると見込まれます。国の手厚い補助制度を受けて、3市の自己負担をできるだけ削減します。

円でした。金額は、勝手に創作しないで下さい。

私が平成21年に、前市長から財政調整基金を引き継いだ金額は、658万円だけでした。

その後、私の努力で、3億600万円↓6億5400万円↓4億470万円と増やし、H25年3月31日には、6億5500万円に到達しました。

しかし、財政調整基金は、ためることに意義があるのではなく、いざという時に大胆に使うことに意義があります。私は、今後も臨機応変に財政調整基金を活用します。ためらわずに使う能力が市長には必要です。

② 24時間連続運転の必要性

ゴミ焼却炉に関しては、かつてダイオキシンが発生の危険が指摘され、大規模・24時間連続・高温燃焼の3条件の確保により、ダイオキシンの発生が抑制されることが、技術的に確立されました。

また、高温燃焼により、発電が確保でき、年間1億円の売電収入も見込めます。

なお、銚子市の現有ゴミ焼却施設の寿命は残りわずかです。八木地区の埋立処分場の寿命も残り5年です。東京都小金井市の実例をみても、市長選挙のために焼却場問題をもて遊ぶのは、感心しません。市長は半年で辞職しました。

K候補のビラに反論します その6

銚子市立病院の充実

① 送迎バスの運行

現在市立病院では、病院バスの計画を真剣に検討していますが、条件が満たされず、苦心しています。そういう病院側の意向や実態を認せずに、病院つぶしに加担した多数派議員が支援するK候補が、勝手に病院バスについて語るのはいけません。病院側では、非常に迷惑だと怒っています。

② 救急24時間受入れ体制の整備

赤字補填予算を再三にわたり否決したり、補填予算の5割カット修正案の提出代表者だった

たK候補が、ここへきて、またまた勝手に赤字

の増大を招く24時間救急を推進する旨を勝手に主張するのは、赤字補填との整合性がとれませんし、どういう手法で実現するかの、具体的な工程表も示していません。

K候補を支援している某議員が、平成21年5月の市長選挙に出馬し、苦し紛れに、わずか数カ月後の「9月に市立病院を再開する」と公約しました。できないことまで、根拠もなしに、ダメモトでなんでもかんでも公約すると、後で自分の首を締め、リコールされる原因になります。

K候補のビラに反論します その7

野平市長は国からお金を 持つてきていない????

折角のご紹介ですから、私が国からあざやかにお金を引き寄せ、税収をめざましく増収した、いくつかの実例をお披露します。

① 平成24年度地方交付税

1億5300万円

平成23年3月31日に市立病院は入院病棟を開設しました。平成22年度実績としてはたった

1日、入院希望者お一人が入院されました。

これは翌日の4月1日（平成23年度）開業予定を1日早めた努力でした。このデータが翌平成23年度の特別交付税の計算に反映され、予想外の1億5300万円が12月に交付され、サプライズ・ボーナスとなりました。

平成23年3月11日の東日本大震災以後、衛生陶器の入手が途絶し、工事期限がいたずらに

過ぎる寸前でしたが、私がかつて建設省で建設振興課長を経験していたため、全国管工事業協同組合連合会や商社のご協力により、工事期限内に数百点の部品が届けました。

② 市税収納率の向上

平成14年時点では100億円課税して78%の78億円しか収税できませんでしたが、平成24年度決算では、85%の85億円を確実に収税する予定です。税務職員に対する市長の細やかな指導が、職員を振るい立たせた結果です。

③ 平成25年度の借金返済額（元金45億円・利子9億円）

借金がすべて純粋に市費負担だったら確かに大変ですし、地域に何の恩恵もたらさなければ、無駄な借金でしょう。

ところが、相当の金額が、地方交付税によって補填されています。平成24年度末地方債残高の総額542億円のうち、市費負担は、305億円です。差額の237億円は、地方交付税で補填される制度です。このように、地方交付税の補填金額を隠した議論は、財政状況の理解をゆがめます。

また、市から大学への誘致補助金77億円に

より、地域には、建設費だけで11億円が支出されました。現在では、職員人件費も含めて、平成24年度1年間で28億円の経常的経費が支出されました（大学としては赤字）。10年間に大学が支出した総額は、概算で391億円だともいえます。そのうち相当の金額が、銚子市の財政（水道・市民税・固定資産税・都市計画税）や地域経済を潤しています。学生は1700人、教員を含めて2千人の経済主体です。大学関係者の生活費やマンションの建築費や部屋代収入が、市民である皆さんの経済を潤しています。

こういう経済効果を「投資効果」と呼びます。借金して誘致した千葉科学大学が銚子市に存在しないとしたら、銚子市民は今生きて行けるでしょうか。「銚子ジオパーク」は、銚子市民の実力だけで認定を受けられたでしょうか。看護学部は増設されるでしょうか。

千葉科学大学の入学式で、今年は435人が入学しました。これだけの若者を銚子市内に毎年呼び込む政策が、ほかにあるのでしょうか。市内のホテルは満員でした。

借金の額だけ特出して、市民の不安をおおるK候補は、市長候補の資格がありません。

K候補のビラに反論します その8

神栖とのサービス格差是正

かつては貧しかった神栖村は、今や、全国に冠たる富裕都市です。銚子市の財政力では、神栖市のまねは到底できません。無理にまねし

「病院つぶしの議員」というデマ

証拠に基づいて多数派議員の病院予算の連続否決の実態を説明することが、どうして「デマ」と言えますか。赤字補てんの補正予算を否決した議員が病院つぶしなのは、明白です。特に、k候補は、自分で「たとえ病院つぶしと言われても」と議会で豪語しています。

〔資料1〕
「銚子市の一般会計から赤字を補てんすることについては、議員としてノーと言わなければなりません。たとえ病院をつぶすのかと言われようとも、…」
(23年9月定例会討論P276)

市会議員 病院赤字補てん予算を連続否決

		リコール派6人						リース派	病院ストップ派6人						採決		
		リベラル銚子		親友会		日本共産党		新風会	新政会	市民クラブ				賛成	反対		
		宮内(和)	加瀬(庫)	—	桑村	笠原	三浦	k	地下	岩井	根本	宮川	宮内(昭)			石上	
平成23年12月市議会	平成23年度銚子市病院事業会計補正予算(第3号)	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	議長	×	×	9	11	➡否決
	平成23年度銚子市病院事業会計補正予算(第3号)に対する再議	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	議長	×	×	9	11	➡否決
平成24年9月市議会	平成24年度銚子市病院事業会計補正予算(第1号)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	7	13	➡否決
	平成24年度銚子市病院事業会計補正予算(第1号)に対する再議	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	7	13	➡否決
平成24年10月市議会	平成24年度銚子市病院事業会計補正予算(第1号)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	8	12	➡否決	
	平成24年度銚子市病院事業会計補正予算(第1号)に対する再議	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	8	12	➡否決	
平成25年3月市議会	平成24年度銚子市病院事業会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	退職	○	○	○	○	○	○	19	0	➡可決

田中氏の個人名義の通帳が判明—通帳の自身は黒塗り、秘密です!

当然です。法人格のない東京事務所の経理を分別するための通帳は、個人名で作ります。銀行は、東京事務所の責任者としての肩書のついた田中氏の個人名義で作ってくれたのですから、すべての出入金が田中氏名義の通帳に記載されました。その大半は、職員給料です。

以下は、担当部長が市議会で答弁した内容です。既に問題ないことをk候補も納得したテーマなのですが、議事録から、担当部長の答弁を引用します。通帳の220行のうち85行が黒塗りされたことについて、何の問題もないと答弁しました。

「先ほどの市長答弁にもあったように、黒塗り箇所は85か所でございます。そのうち給与の支払いに係る部分が35か所、東京本部役員が立てかえた部分が20か所、あと振り込み手数料に係る部分が28か所、あとは旅費の精算等による返金が2か所とのことでございます。」
(平成23年12月市議会)

田中氏は何をやっていたのか?

民間法人の経営者には、職務専念義務はありません。職務の合間や週末に創造的な仕事をすることは、何の問題もありません。片手間でできない病院再生業務をなし遂げた手腕こそ、評価すべきでしょう。

公的な関わりの実績を個人の仕事のホームページで誇らないのも、品格ある態度です。引用された広告会社の書き方が気に入らないといっても、「田中副理事長時代の不透明性」の証明にはなりません。攻めている意味が「不透明」です。議員9名の連名で、これだけ品格のないちらしを配布するのは、いかがなものですか。

株ICF代表の小倉氏と野平市長との関係は?

「株ICF」は、株ICFの間違いです。小倉氏は、政府のリゾート審議会等々の委員を務めた、名高い開発者です。特に、岩手県アツビスキー場の開発者としてお名前が知られています。

私は、3年4ヶ月の岩手県庁勤務時代には、お会いしたことがありませんでしたが、知人が小倉氏を非常に高く評価していたことから、関心を持っていました。初めてお会いしたのは、私が市長に復帰した平成21年の少し前と記憶しています。元県副知事のご紹介でした。

銚子市の市議会議員は、外部の有能な人材に対する拒絶反応が強く、「てんでんしのぎ」などと皮肉られることがあります。田中氏と小倉氏に対する攻撃のひびきは、銚子市の恥になります。やめるべきです。

銚子市がかつての繁栄を取り戻すためには、人財不足を補うため、有能な外部人材(よそもの)を活用しようではありませんか。年間600万円や575万円の調査費としての実質的な人件費は、これらの人材に関しては、決して高額とは言えません。非常勤で年間40日しか市議会の建物にいない議員の年額報酬636万円と比較しても、決して高くないです。

これら以外にも、k候補のピラには様々な誹謗中傷が書かれています。ローカル新聞を経営するk候補は、こんな酷い記事を平気で書くのですか。天国のお父さんが悲しんでいると思います。反論はここまでとしますが、根拠のないささいな誹謗中傷は、すべて、受け入れられない非難であることを、念のために書き添えます。